

2017～2018  
職員部会ニュース

2017年度12・1月  
東京都公民館連絡協議会

発行：東京都公民館連絡協議会

会長：西東京市

職員部会長：小金井市 筈本 孝文

日時：原則毎月第3水曜日

会場：小金井市市公民館本館

メンバー：昭島市（遠藤）・国立市（遠藤）・

町田市（今村）・国分寺市（南波）・

小平市（小山）・狛江市（横山）・

西東京市（山本）・東大和市（富田）・

日野市（佐藤）・福生市（西田）

第8回職員部会報告

1 事務局より

・職員部会ニュースコラム担当順

12・1月号 昭島市、町田市（1月27日締め切り）

2・3月号 狛江市、小金井市（3月18日締め切り）

10・11月号の配布有。データは後日各市に展開予定。

12・1月号の作成、よろしくお願いします。

2 協議事項に関して

・都公連研究大会課題別集会について

① どのような内容にするか（具体的に扱う内容・助言・報告してもらうか）。

② どのような形にするか（講義形式か、グループワークか）。

③ その他

<情報提供>

研究大会募集状況（狛江市横山さんより） ※平成29年12月20日

現在の推計値

・全体の募集総数 約160名

・第三部会申込人数 約50名（全分科会で1，2番目の申込人数とのこと）

※内訳

職員25名、公運審8名、市民3名、

その他14名（小金井市企画実行委員13名、町田市運営協議会委員1名）

- ・ 申込人数確定後、分科会を実施する部屋が決まる。

#### ＜協議内容＞

##### ○事例発表・グループワーク内容について

- ・ グループワーク（座席）の配置は事前に職員部会で決める（職員だけ、公運審だけ、というような偏りがないようにする）→1月の部会で決める。
- ・ 職員部会の担当者がグループワーク時のファシリテーターを務めることになる。
- ・ グループワークの内容については、1月に金田先生を交えて正式に決定する。

##### ○事例発表予行練習（小金井市：筈本、東大和市：富田）

#### ＜発表に関する指摘事項など＞

- ・ 2名の発表についての論点整理が必要→①金田先生に整理してもらう、②司会者で整理する、と2案あり。1月に正式決定。
- ・ 事例発表者各市の「共通項目」を載せたリストを作成する

### 3 各市からの報告事項

- ・ 福生市民会館開館40周年記念事業  
平成30年1月28日（日） 午前10時～午後0時30分  
福生市民会館小ホール（つつじホール）にて実施

次回 2018年1月17日（水）14時～ 会場：小金井市公民館本館

#### ＜次回の協議事項＞※金田先生来館予定

- ・ グループワーク内容の決定
- ・ グループワークの席順の決定
- ・ 当日の役割分担決定
- ・ 当日の職員部会担当職員のスケジュール確認



### 1 事務局より

- ・ 職員部会ニュースコラム担当順  
1 2・1月号 昭島市、町田市（1月27日締め切り）  
2・3月号 狛江市、小金井市（3月18日締め切り）

### 2 協議事項に関して

都公連研究大会課題別集会について（助言者の金田光正先生を迎えて打ち合わせ）

○事例報告内容確認

東大和市事業事例、小金井市事業事例発表。事業を実施する、または実施している背景について触れるべきと指摘あり。また、１０分程度の発表になるよう資料の精査を行うこととなった。

○グループワークの内容確認

グループは８つ。時間は議論が６０分、発表が各グループ３分で設定。職員部会のメンバーが各グループに配置され、ファシリテーターの役割を行う。自己紹介から始まり、各人の公民館講座の魅力とは何かを議論してもらう内容となった。終了後、記録集作成のため、各グループで作成したメモを回収する。

○当日のタイムテーブル、役割分担、準備する備品の確認

タイムテーブルは前半で事例報告、後半にグループワークおよび助言者講和。途中休憩を確保する。司会者や記録係など各種役割分担決定。また、準備物について確認を行った。

３ 各市からの報告事項

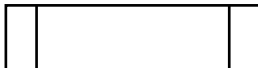
○福生市公民館開館４０周年記念事業

平成３０年１月２８日（日） 午前１０時から午後０時３０分 開催

次回 ２０１８年２月２１日（水）１４時～ 会場：小金井市公民館本館



この「職員コラム」は、毎回職員部会のメンバーが交代で記事を書きます。内容は職員部会の様子や各市公民館の行事、お知らせしたい事業などです。今回は昭島市、町田市が担当です



「昭島市公民館開館35周年記念事業を開催しました。」

昭島市公民館 遠藤 弘文

昭島市公民館は、今年の7月で開館35周年を迎え、これを記念し11月25日（土）に記念事業を開催いたしました。当事業は公民館と公民館運営審議会、公民館利用者連絡会との協働で企画運営し、「人と人とをつなぐ公民館、公民館のこれからをつなぐ」をコンセプトとし、全体のテーマを「であい 学び そしてつなぐ」としました。

午前中は記念式典と基調講演が開催され、式典では、主催者側と来賓者の祝辞いただき、その後、基調講演を開催しました。講師には、東京大学名誉教授の佐藤一子さんを招き、「公民館のこれまでとこれから」をテーマに講演をいただき、コミュニティ活性化の拠点として公民館の重要性を認識する機会となりました。



午後は、ミニ・アトラクションとパネルディスカッションが開催され、記念イベントでは、公民館事業から生まれた学習グループの講談・公民館建設当時から活動しているフォークギターサークル・障がい者青年学級による「よさこいソーラン」の披露・公民館で活動しているフラダンスサークルの子どもたちの発表があり大いに盛り上がりました。



パネルディスカッションでは「公民館のこれまでとこれから」をテーマに、活動団



体から2名と職員を含め3名のパネラーに、それぞれ公民館の過去、現在、未来を語っていただき、コーディネーターとしてお招きした首都大学東京名誉教授の大串隆吉さんに総括していただきました。会場からも意見が出され、未来に向け公民館がどうあるべきか考える貴重な時間となりました。

また、同時に開館35周年記念し、あらためて公民館を広く、多くの方に知っていただくために、公民館登録団体の活動を紹介するポスター展の開催と団体紹介冊子を作成することとなり、ポスター展は、93団体から提出され、式典の前後2週間に渡り、公民館1階のギャラリーと廊下に展示しました。それに合わせ公民館の歴史をまとめたパネル展も展示しました。ポスターは個性的なものや色鮮やかなものがあり、多くの方が足を止め観覧されている姿が見受けられました。



団体紹介冊子については、約150団体から原稿が提出され、今年度中に製本し各団体等に配布予定となっています。

節目の年として次は40周年となります。今回は、館の改修工事の都合により前倒しでの開催となりましたが、次回は、多くの時間をかけ、より多くの方に参画していただきより良いものにしていきたいと思ひます。





## 「将棋」講座について

町田市生涯学習センター 今村耕一

生涯学習センター配属も5年目を迎えている。そろそろ異動の声も聞こえてきそうなので、5年間を振り返り、思い入れの強い講座について記してみます。

学生たちと協働して取り組んだファッションショー「まちコレ」やボランティアスタッフの確保に奔走した「障がい者青年学級」など、ワークライフでいうところの自分の「ライフ」ではおそらく体験しないまま時間が過ぎていったのではないかとすると、まさに貴重な体験をこの職場ですることが出来ました。

ただ、その二つの事業は、思い入れが強く、何か原稿を書く必要があった際、何度か綴った記憶があります。私事で恐縮ですが、プライベートでも取り組んでいて、似たような経験をしているが、その思いが強すぎて、事業としても企画してしまった講座について書こうと思います。

それは、将棋、です。

さかのぼれば、30年以上前、父親から教わり、一瞬で、その魅力にはまった将棋。あっ、と言う間に、父親も負かし、将来はプロ棋士かと思いを馳せた小学校時代。しかし、一学期は簡単に打ち負かされたのに、夏休みに祖父に特訓を受けた友人に、二学期の半ばには面白いようにコロコロと負けて、将棋そのものが嫌いになってしまった小学校四年生の頃。



時が流れて二年半前。勉強も苦手で、かといって、何かの遊びに夢中になるわけでもなく。さらに、人と話すことも得意な方ではない。だから当時、小一の息子の気持ちがいまいち分からない。さて、どうしたものかと思っていた時に、親子で取り組んだ将棋。藁にもすがる思い、はいささか大げさですが、それでも息子の将棋盤の前でイキイキとした表情を見せる姿を見て、親としてほっと胸をなでおろしたものです。

しかし、そこでふと思いました。もしかしたら、うちの息子みたいな子どもも他にいないかもしれない。言葉のコミュニケーションが苦手でも、駒と駒のぶつかり合いで何かを表現する子どももいるのでは。

そう思い、将棋講座を昨年の春休み、夏休み、そして今年の春休みと開催することになりました。あ、一応言っておきますが、藤井聡太四段が加藤一二三九段に勝利して話題になる前に企画したんですよ。決してミーハーな発想ではない。そこ、重要です！

将棋講座に集まる子どもたちの表情はとても輝いています。おとなしそうな顔をして、果敢に攻める積極的な子、さっきまで走り回っていたのに、将棋盤の前では先ずは手堅く守りを固める子。つながる、ということが社会教育の一つの役目なら、異世

代で向かい合っても、手加減も遠慮もない、そして言葉を交わさない将棋は、日本の伝統的なコミュニケーションの一つではないでしょうか。

と強引に社会教育的な話に落とし込んでみましたが、実は、昨日、息子に初めて負けてしまったのです。もちろん手加減なしの、得意の「三間飛車」戦法を用いたにもかかわらず。。。

悔しいやら、嬉しいやら、でもやっぱり悔しく。だから将棋への思いを何かに残しておきたく。なにやら、この原稿も、将棋一色になってしまいました。ごめんなさい。